

第4回 姫路市市民活動・協働推進事業計画検討懇話会 会議録

日 時 令和3年2月15日（月） 10時～12時5分

場 所 姫路市役所 10階 第4会議室

出席者 構成員10人、事務局7人

（構成員）	新川 達郎	藤本 真里
	長田 秀人	岩田 稔恵
	長谷川 文夫	森下 龍峰
	前川 裕司	大森 正雄
	大西 弘	依田 法子

（事務局）	姫路市市民参画部	平石部長
	姫路市市民活動推進課	藤保課長、村田課長補佐、山岡主任、奥村専門員
	市民活動・ボランティアサポートセンター	佃所長、岸本主任

傍 聴 傍聴可・傍聴人無し

次 第

1 開会

2 議 事

(1) 姫路市市民活動・協働推進事業計画（案）にかかるパブリック・コメントの募集結果について

(2) 姫路市市民活動・協働推進事業計画について

3 閉 会

【議 事】

座 長	本日の１つ目の議事、市民活動・協働推進事業計画（案）のパブリック・コメント募集結果について、事務局から説明を。
事務局	【姫路市市民活動・協働推進事業計画（案）にかかるパブリック・コメントの募集結果についての説明】
構成員	パブリック・コメントの回答数は、市民の関心度のバロメーターになるのではないか。良い計画なので、もっと市民に広がればと思っている。
事務局	<p>パブリック・コメントの提出結果については、案件によって０件のものもあれば、関心度の高い新総合計画等、それなりの提出件数があるものもある。</p> <p>今回の計画でも、広報には努めてきたが、結果として２通５件であったことは少し少ないと感じており、市民の関心度のバロメーターになると考えると、残念な件数だと感じている。</p>
構成員	パブリック・コメントの提出件数については課題だと思う。パブリック・コメントを実施する前に、ＳＮＳを活用して自由に意見を言える場を設けるなどのワークショップを置くような仕掛けを作れば、すそ野を拡げることに繋がるのではないかな。
事務局	ＳＮＳであれば気軽に見ていただき、拡散しやすいメリットもある。ただ、先日の市民活動・ボランティアサポートセンターの運営会議でも話題として挙がっていたが、年代によって使用するＳＮＳのトレンドが違う。トレンドを研究し、パブリック・コメントについても、年代に合わせた効果的な広報を検討していきたい。
座 長	パブリック・コメント制度の敷居を低くする工夫として、新しいメディアの活用も検討していただきたい。市としてＩＣＴ化を大きく掲げている以上、様々な広報等の手法について工夫していく必要がある。
構成員	<p>ＳＮＳ等では匿名でコメントができる。計画のどこか一部分のみを捉えてコメントするような意見が沢山出てくるのはどうか。名前や住所等を記入の上、計画の全体を見て意見を書くのが、パブリック・コメントの基本の形だと思う。</p> <p>この会議に出席している立場として、計画の中身が周知されるよう、自身の所</p>

	<p>属している組織に伝えていくということが重要だと思っている。</p>
座 長	<p>パブリック・コメント募集結果の2番の意見にある部局横断的な庁内の連携について、市の考え方が、基本指針1-②-1「職員研修の充実」のみの記載となっているが、これまでの計画でも、指針5のところで市民協働を通じた庁内各課の連携や取り組みを意識して進めてきているため、このことも記載したほうがよいのではないか。また、進捗管理のところでも、庁内連携を考える上で、庁内全体での評価を実施しているので、その点でも庁内連携を取りながら進めていると言えるのではないか。</p>
事務局	<p>確かに書き足りていないところがある。まさにそのように取り組んでいく予定のため、もう少しボリュームアップして市の考え方を出したいと思う。</p>
構成員	<p>パブリック・コメント募集結果の3番の意見で、姫路市民会館に無線LAN環境がないという意見があるが、姫路市の施設にはほとんど公衆無線LAN環境はない。一方で、小・中学生にはタブレットを支給し、ICT化を進めている。小・中学生に渡すタブレットにも税金が使われているので、教育委員会と連携をとりながら、学生だけでなく地域住民も使えるようにすれば、もっと馴染みやすくなり、パブリック・コメント募集結果の4番の意見にあるような回覧板のICT化等にも繋げていけるのではないかな。その点からも、今回のような意見を市民会館所管部署のみと共有するではなく、もっと部局横断的に共有したほうがよいのではないかな。</p>
構成員	<p>同じく3番の意見についてだが、市の考え方が、「今後の施策の参考にさせていただく」だけの記載となっている。予算がつかないと書けない部分はあるかとは思いますが、移動型ルーター機器の貸出等、もう少し具体的な取り組みが記載できないかな。</p>
事務局	<p>パブリック・コメントのご意見では、具体的に市民会館の無線LAN環境についてであったが、現状、姫路駅や城周辺の観光・産業関係等、一部の施設を除き、市民へ提供するところまで至っていない。</p> <p>一方、教育機関におけるタブレット配布の施策は進めているところである。教育目的で配布されたものを市民と共有できるかは難しい部分もあるが、このようなご意見が出たことも踏まえ、施設の利便性の向上については、市民活動推進課だけでできるものではないので、庁内の連携を深めるとともに検討を進めて参り</p>

	たい。
座 長	市の方針として、単に「参考にする」というよりは、記載できる範囲で説明をしていただきたい。ICT化について、計画策定に向け進めているということや、積極的に取り組んでいるということぐらいは記載できるのではないかな。
構成員	<p>興味・関心を持って使ってもらわないと、ICT化は進んでいかない。そのための仕掛けが非常に重要。自身の地域の公民館では、地域の費用でWi-Fi環境を整え、集まりのたびに伝えているが、なかなか活用は進まない。やはり興味・関心を持ってもらう仕掛けをどう作っていくかである。</p> <p>パブリック・コメントの募集も同様で、文章にすると無味乾燥となってしまう計画に対し、どのようにすれば市民の興味、関心をひけるのか、そのための仕掛けを考える必要がある。</p>
座 長	必要に迫られると使うようになるというところもあるため、必要性が感じられるような環境も重要であり、また、そのようなコンテンツを行政情報として提供していくことも必要である。特に防災等については、もっと情報共有してしかるべきであるし、市民の皆さんの関心も高いはずである。このようなところをきっかけにして、市民協働や安全・安心なまちづくりに繋げていけば良いのでは。
構成員	パブリック・コメント募集結果の1番の「数値目標の設定が必要」という意見は、私も同じである。市の考え方にある「数値としてあらわすことができない場合」とはどのような場合なのか。
事務局	例えば、市が実施する会議等の情報を積極的に公開するという事業があるが、会議数等は、各課の年度ごとの事業予定によって変動するため、情報公開を担当している部署が具体的な数値目標を設定することは難しいといったケースがある。また、これから事業を検討していくケース等も数値目標を設定できない場合がある。
構成員	計画全体として、次の段階へ進めていく必要がある。姫路市は自治会を中心に非常に安定しているし、市民活動団体も非常に多様で力を持っている。新しい総合計画では、「多様な主体が輝くまち」を市民活動分野の目標としており、参画と協働に対し目指すランクが一段階上がっている。この計画もそれに見合った変革が必要である。例えば、市民活動・ボランティアサポートセンターを市民活動団

	<p>体が運営する等、市民の目にも明らかに変化が分かるような大胆な施策が必要ではないか。</p>
構成員	<p>先ほど、他の構成員から、地元の費用で公民館に無線LAN環境を整備したとのお話があった。姫路市は自治会に様々なことを依頼しており、市とのやり取りでも必要となることから、各公民館に無線LAN環境を整備してもらいたい。そこへ地縁団体が入り、地域住民が公民館に集まるようになれば、公民館が色々と相談のできる窓口となり、市民がもっと興味・関心を持てるようになる。</p> <p>また、公民館は教育委員会の担当、自治会は市民局の担当など、市役所は縦割りで横の繋がりが欠けている。受け止める市民からすれば市役所は一つであるため、変えていくべきである。</p> <p>なお、回覧板は安否確認の意味もあり、小さなコミュニティの繋がりにとって必要なものであるため、残しておくべきものはそのまま残し、変えるべきものを変えていく必要がある。</p>
構成員	<p>今の公民館をどう変えていくかではなく、一旦終了させて、新たな形で立ち上げる必要がある。現在、そのあたりを地域活動充実支援事業で取り組んでいるところである。</p>
構成員	<p>姫路市は市域が広く、地域による特異性がある。市民活動・ボランティアサポートセンターは市の中心に置かれるため、各地域の特異性に対応するためには、公民館のパワーアップは重要である。</p>
構成員	<p>現在、市民活動というと、大きく分けて、自治会等の地縁団体、NPO等の市民活動団体、行政、企業の4つである。それぞれでは市民活動に取り組んでいるが、枠組を越えた人的交流が少なく、いつまでたっても横の繋がりが育たない。即解決できるものではなく、やはり重要となるのは人的交流で、インターンや研修等、具体的な機会を作っていくことが必要である。現状、県とNPOは良い関係が築けている。これは、過去に県が職員をNPOへインターンで派遣したことにより、その当時の人的交流が、現在の良い関係に繋がっていると実感している。</p>
座 長	<p>それでは続いて、事務局より姫路市市民活動・協働推進事業計画の今後のスケジュールについて説明を。</p>
事務局	<p>【姫路市市民活動・協働推進事業計画について（今後の流れ）の説明】</p>

構成員	<p>この計画は5年間となっているが、現在、世の中の変化のスピードは非常に速い。最初に決めた計画に固執することなく、状況に応じて、柔軟に対応してもらいたい。</p> <p>また、これに関連し、第3次計画の期間中に新たに取り組んだ事業のうち、何年度にどのようなものがあったかを伺いたい。</p>
事務局	<p>最初のご意見については、計画案の1ページにあるとおり、中間年の令和5年度中には、懇話会において事業の進捗について意見を伺い、必要に応じて計画の内容を修正することとしている。</p> <p>2つ目のご質問については、何年に何件増えたか等の回答はできないが、新たに取り組んだ事業があれば、各担当課において進捗状況調書に記載したり、こちらで把握して追加するようにしていた。</p>
構成員	<p>今回の計画における予算の裏付けはあるのか。</p>
事務局	<p>計画の個別の進捗状況調書には、予算まで明記するような仕組みにはなっていないが、事業によって経費がかかるものもあれば、新規に検討していくものは予算すら明確になっていないものもある。自治体の予算は単年度主義であり、毎年度、各事業の担当課から財政当局への要求の中で、予算がつくかが決定するため、個別の事業も、継続して実施するものもあれば、内容の拡充や変更が必要となるものもある。</p>
座 長	<p>毎年度の予算については、各事業をこの計画の枠組みに沿って進めているかということが、財政当局や議会の判断根拠となるのではないかと考えている。この意味で、計画は、予算の基礎資料となっていると捉えると良い。また、全庁的にそのような運用の仕方をしていただかないと、この計画を作った意味がないため、全庁で共有していただきたい。</p>
構成員	<p>各部局で予備費はないのか。</p>
事務局	<p>各部局はなく、市で一本の予備費である。</p>
構成員	<p>提案型協働事業の見直しとして、現状、市との協働となっているが、人と人の繋がりを重視し、支援団体や企業との協働も可能としてはどうか。新しい繋がり</p>

	<p>づくりを重視するため、この5年計画をきっちり理解してもらった団体に応募してもらえると良い。</p>
座 長	<p>コロナの状況が収束をしない中で、このような協働事業を実施するためには、新たな枠組みや考え方が必要となってくる。大規模集会型ではなく、小規模分散型やネットワーク型で効果的な協働事業をどのように組み立てていくのか、またその中で、市民の必要性にどう具体的に応えていくのかが新たな市民協働の在り方として重要である。このことはもう目の前にあることで、変わらないといけないところが多々あるということを、担当課として認識して進めてもらいたい。</p>
構成員	<p>第3次計画の時は製本された冊子を作成しているが、どこへ配布したものなのか。また、第4次計画でも作成するのか。</p>
事務局	<p>あまり部数は作成していないため、懇話会の構成員の方々や関係団体にお配りしたのみである。あとはホームページ上にデータ化したものを掲載している。</p> <p>第4次計画では、製本することは考えておらず、基本的にはホームページ上でデータ化して掲載し、懇話会の方々にはプリントアウトしたものを送付させていただく予定である。</p>
構成員	<p>パソコンに馴染みのある世代はそれで良いのかもしれないが、原本を見たい方もおられるので、公民館等、市民の目に触れるところに置くことができれば良いと思う。また、ホームページはなかなかたどり着くのが難しいため、回覧にQRコードを載せる等、それぞれの世代への対応が必要ではないか。学生は、将来の姫路のまちに関わる人材であるため、頭の片隅にでも置いてもらえるよう送り付けてでも見てもらうぐらいの気持ちで良いのでは。</p>
事務局	<p>効果的な広報を検討する。紙で全部に配布をすることはなかなかできないため、ホームページでたどり着くのが難しいといった問題に対応できるよう、それぞれの世代の目につくところにQRコードを載せるなど考えたい。</p>
構成員	<p>先ほど提案型協働事業の改革の意見がでたが、運用の改革が必要ではないか。協働が決定した団体と協働する担当課の話し合いをする際に、専門家を入れてはどうか。協働する担当課とのやりとり、職員の関わり方を通じて、団体も学び、担当課においても新たな施策の模索、既存施策の改善などに繋がる。このことが協働に参画したグループの満足度の向上につながる。満足した団体の口コミで新</p>

	<p>たな団体を呼び込むきっかけとなると思う。</p>
構成員	<p>ひめじおんまつりの実行委員としての観点から、ボランティア団体と市民活動の協働がどのように結びつくのかをこの一年考えてきた。近年、実行委員に大学生が入ってきたり、今年度については高校生が実行委員長になったり、参加団体にも、高校生のボランティア団体が入ってきたりで、世代間の幅が広がっており、これこそが市民としての協働なのかと実感できた。この点からも、この計画がボランティア団体や個人ボランティアのすそ野を拓けるような計画となれば嬉しい。</p>
構成員	<p>この計画が上手くいくかは、市民活動推進課がキーポイントとなる。事業担当課と市民団体や市民の声を繋ぐ役割を果たしてもらいたい。</p>
事務局	<p>市民活動・ボランティアサポートセンターを含め、市民活動推進課は繋ぎのカギになると思っている。「多様な主体が輝くまち」は、地縁系団体、NPO等の市民活動団体、企業等、それぞれが上手く繋がってこそ実現できるものだと考えている。非常に変化の激しい不透明な時代だからこそ、繋がることを大事にしていきたいと思っている。この計画のサブタイトルにもある「みんなが主役！みんなで行動」をPRしていきたい。</p>
構成員	<p>我々の話ではあるが、子ども会の弱体化をどう正常化させるかを11年前に着手し、5年前からやっと動くことができるようになり、具体的に動きだしてから今で1年半となるが、まだどこをとらえて変えていけばよいのか全貌が見えてこないところがある。</p> <p>この計画においても、つかみどころのない要素が多々あると思う。市民活動推進課の負担、役割は非常に大きい。よろしく願いたい。</p>
構成員	<p>子ども会の話が出たため、少し子ども会の現状をお話しさせていただくが、これまで子ども会が市民活動推進課と繋がることはほとんどなかった。</p> <p>事業をすることが市の仕事であると考えていたが、コロナ禍において、このようなときにこそ市が先頭に立ち、連携して情報発信をすることが市の仕事だと思い始めた。</p> <p>子ども会は地域の財産であり、子ども会が発展しないところは、地域が衰退化していく。地域の活性化のためにも、市や連合自治会、市民活動団体等とタッグを組んで情報発信していきたい。</p>

構成員	<p>市民活動とは何なのか。イベントをすることだけが市民活動ではなく、自身が生活していく上で、安全で利便性があり、お互いに助け合う生活が基本にあり、その輪が広がっていくのが市民活動であると思う。そのことが小学生にでもわかるような簡単なものを作っていただけるとありがたい。</p>
座 長	<p>それでは、時間となったため、議事についてはここまでとしたい。</p>